YOUとYUYAをつなぐYY通信

ゆや県政報告

2011年 特別号　YY通信 No.12　発行責任者　三重県議会議員　杉本熊野

４月の三重県議会議員選挙で、皆様からのあたたかいご支援により二期目の当選を果たすことができました。

「子どもたちの育ちを支え合うあたたかな眼差しの社会」「若者が希望を語り、高齢者や障がい者などだれもが安心して暮らせる社会」をめざして、精一杯がんばります。

今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東日本大震災により尊い命をなくされた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様に心よりお見舞い申しあげます。

３月11日以降、私は、東日本大震災に伴う三重県の対応を報告し、復旧・復興支援を多くの方々に呼びかけてきました。

この間の活動の一端を報告いたします。今後の対応についてご意見等があれば、お寄せいただきますようお願い申しあげます。

三重県から被災地への支援

⑴ 三重県東日本大震災支援本部の設置

（全国知事会の割り振りにより、支援対象県は宮城県）

⑵ 主な物的支援（５月６日現在）

県の備蓄物資等	毛布5,855枚　簡易トイレ530台、担架300台　医薬品・衛生材料291箱など
市町の備蓄物資	毛布18,005枚　アルファ化米24,800食　オムツ29,176枚　マスク17,000枚　乾パン21,920食など
県民からの提供物資	生活物資や保存食など11,513箱輸送　現在は被災地の意向をふまえ一時停止
企業からの提供物資	お茶12,000本　医薬品2,310箱　フリースジャケット10,000着　フリースパンツ3,000着　マスク400,000枚　お菓子100,000袋など

⑶ 人的支援（５月６日現在　合計1,133名）

県職員派遣 240名	現地支援職員派遣	（宮城県塩釜市）	72名
	現地支援調整要員派遣	（宮城県庁他）	36名
	防災ヘリコプター派遣	（岩手県・宮城県）	18名
	心のケアチーム派遣	（宮城県）	24名
	保健師派遣	（岩手県）	52名
	その他		38名
緊急消防援助隊			346名
警　察			547名

⑷ 被災者の受け入れ（５月６日現在　合計166名）

岩手県から	宮城県から	福島県から	茨城県から
３名	16名	138名	９名

提供可能住宅数1050戸、入居済み49戸

県内水産業の被害状況と対応

被害総額	魚類養殖	カキ養殖	その他
40億8,000万円	16億4,000万円	10億6,000万円	13億8,000万円

【県の対応】大規模地震津波災害緊急対策事業費交付金、漁業近代化資金利子補給上乗せなど

報告　希望のえんぴつプロジェクト

あるく　きく　活動から

「文房具が足りなくて、新学期が迎えられない女川の子どもたちに支援を！」

私は、この間多くの皆さんに、被災地の子どもたちへの支援を呼びかけてきました。

全国から、海外からも多くの心が寄せられ、５月２日現在、募金 7,579,510 円をはじめ、たくさんの支援物資をいただきました。ありがとうございました。

おかげさまで女川の５つの学校（女川第一中学校、女川第二中学校、女川第一小学校、女川第二小学校、女川第四小学校）は、４月12日、新学期をスタートさせることができました。

この間の「希望のえんぴつプロジョクト」の活動状況を報告させていただきます。

はじまりは…

東日本大震災支援をきっかけに生まれた、三重県を中心とした市民有志のグループです。日系ブラジル人ら外国人との多文化共生をすすめる鈴鹿市のＮＰＯ法人「愛伝舎」の坂本久海子理事長をはじめとするメンバーや、伊藤徳宇桑名市議、広告代理店社員やデザイナー、そして杉本の、10人以下と小規模ながら、多種多様なメンバーが集まっています。

きっかけは、３月末、女川第一中学校の阿部一彦先生からの電話でした。

「新学期が始まるのに、文房具が足りないのです」

その電話を受けたメンバーの一人が、阿部先生の取り組んできた人権や多文化共生教育の理念に近い「愛伝舎」に相談し、募金活動が始まりました。

４月初旬、この動きを知った広告代理店社員が「女川の子どもたちに未来を描くための鉛筆を届けたい」との思いから、募金活動を「希望のえんぴつプロジェクト」と命名。

スタッフミーティング

デザイナーが専用ウエブサイトをつくってくれ、ネット上での支援も呼びかけていきました。

プロジェクトは、目に見える子どもたちへの支援ということから反響を呼び、多くの方に賛同いただき、この間、女川町の先生方のニーズに応じた物資を送らせていただいています。あわせて、物資支援のお話も多数いただき、これらは被災地間の格差や物資の集中を生まないように、女川町以外で被災した市町の先生方のニーズとマッチングさせていただきながら、届けさせていただいています。

5月5日　女川へ行かなくては…

「４月 12 日　女川町の５つの小・中学校で、新学期をスタートさせることができました。

これも、三重県民、そして全国の方々が希望のえんぴつプロジェクトを通じてご支援頂いた賜です」との感謝の手紙が女川町教育委員会、小・中学校校長会から届けられました。

５月５日　こどもの日
宮城県へ出発

「希望のえんぴつプロジェクト」の活動が始まって約１ヶ月あまり。フル回転で物資支援を続け、募金も 700 万円を超える金額が集まってきた中、今後どんな支援が必要か、自分の目で見、耳で聞き、心で感じるため、スッタッフを代表して坂本理事長と杉本が被災地へ行くことにしました。

5月3日 スタッフミーティング(愛伝舎にて)

被災地の学校訪問の目的は…

1 女川町教育委員会への支援について
- 支援物資の充足状況を調べ、今後の支援内容について相談する。
- 「希望のえんぴつプロジョクト」の女川の担当者を確認する。

2 名取市への支援内容について相談する。

3 地域間格差の実態について調べる。

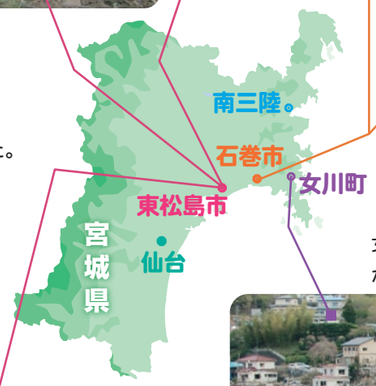
＜5月5日～7日　東松島市→石巻市→女川町→南三陸町＞

東松島市立鳴瀬第二中学校
３月 11 日は卒業式だったそうです。
ステージの飾り、紅白幕…
式場が津波にのみこまれ
時計は 14 時 48 分で止まっていました。

校舎内

津波に流されたバスが
建物の上に…。

石巻市の産業は壊滅状態です。



女川は、銀ザケ、カキ、ホタテなどの養殖業
が盛んで、日本有数の漁港でしたが…。

延々とがれきのまちが続きます。
がれきの中で、自衛隊の皆さんが作
業していました。２ヶ月たち、少し
ずつ道が復旧されてきています。

女川第一中学校　大内校長の願い

学校は命を預かるところ！
命をなくさない国づくり、命をなくさない人づくりを！
それが、残された者の使命！

・「希望のえんぴつプロジョクト」は、ありがたいの一言です。長期的に続く支援が嬉しいです。
・子どもの心が負っている傷は深いです。
　子どもたちは、明るくふるまっていますが、今までできたことが、できないことに気づいています。体育も部活動もできない。動きたいさかりの子どもを十分に活動させてあげることができない。おなかいっぱいに食べていないことが、悔しい。体のもとになることを、させてあげられないことが、悔しいなあ。

支援物資の鉛筆

　子どもたちに今一番、必要なことは、本物に出会うことです。本物の志が全国に展開しています。子どもたちを本物の人たちに会わせたいです。
　石原プロモーションの渡てつやさんが女川に来てくれました。渡さんのハーモニカに、子どもたちは感動し、グルッと、心をわしづかみにされました。

支援物資の上ぐつ

　中学生には、ものすごいエネルギーがあるのに、今、それを出せない。もう一度、子どものエネルギーを取り戻したい。中３の子どもたちは歌がうまい。歌を通してメッセージを送りたいと思います。
　でも、今は、女川から出られない。毎日、瓦礫を見ているのに、瓦礫を見ながら、豊かになれというのも無理。花を植えたいと思います。
・教職員に無理をさせており、日に日に疲労がたまっています。
　学校を早く立ち上げるのは、かなりの力わざ。日常にしていくのも、かなりの力わざ。教職員が安定しないと、いい教育はできないと思います。

新小学１年生の教室

女川第一中学校　阿部一彦先生の日々

　学校を始めるにあたって、前日に模擬授業をしました。どのように子どもたちを迎えようか？
「来てくれて、ありがとう」一人ひとりと握手をしよう。それ以上は言わないでおこうと話し合いました。
「来てくれて、ありがとう」ここからスタートしました。

休けい時間の子どもたち（小学校）

　ジャージで登校した子どもに、「あれ？今日は、なんでジャージ？」と聞いてしまいました。
「おばあさんが、毎日沢で洗ってくれていたけど、今日は間に合わなかった…」
　カッターシャツが一枚しかないことを知っていたのに…。

全国からたくさんの寄書きが

　女川第一中学校から仙台の学校へ転校した子どもから電話がありました。
「先生、女川へ帰っていいですか？」「どうして？」
「制服がないと転校先の先生に言ったら、買ってきてくださいと言われたの・・」

女川町教育委員会　遠藤教育長の思い

子どもたちの笑い声が大人の心に火をつける！

・支援をがんばる力にして、子どもが学校に来てよかったと思える学校にしたい。困ったことを、学校でなら言えるようにしたいと思います。
・子ども同士の支えあいこそが、本当のケア。教師が子どもに寄り添うことが、ケアだと思います。
・避難所では学習ができないので、避難所の子どもを対象に、18:00～20:30 の間、学校を開放します。

左から　杉本、坂本、女川教育委員会教育長、
女川第二小学校教頭、女川第一中学校阿部一彦教諭

県政・県議会に対してのご質問やご意見をお待ちしています！

　今後も、子どもたちの笑顔あふれる未来をめざし、くらしの切実な願い、現場の声、女性たちの思いを県政に反映できるよう精一杯とりくみます。皆様からのご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

杉本ゆや事務所
住所：〒514-0003　津市桜橋２丁目142
TEL：059-226-6252　FAX059-227-7139

※各地域で行われる行事などにもどんどん声をかけてください